

折々の記 No289 : 露のウクライナ侵攻について  
適当な時点での一応の取りまとめを実施した。

(令和4年3月8日記)

### ○ロシアのウクライナ侵攻

2月24日未明、ウクライナ国境のベラルーシ、ウクライナ東部親露派勢力圏、ウクライナ南部黒海正面からウクライナに全面侵攻した。

ロシアの戦争目的 : 親露派勢力地を独立国として承認 相互防衛条約締結  
ウクライナの武装解除 親露政権の樹立

#### 1 米欧諸国によるロシアの侵攻抑止の失敗

経済制裁をちらつかせ、機密情報を開示して抑止せんとするも失敗  
米はウクライナ防衛義務なしと声明

#### 2 ロシアの誤算

① ウクライナ周辺に大規模軍の展開によりウクライナは屈服すると見込んだ。  
圧倒的な戦力差 ウクライナ大統領にリーダーシップなしと見做す  
ウクライナ軍は弱体と見誤った。

② 圧倒的に優勢な戦力の効果的運用に問題点あり

当初に精密誘導兵器で軍施設破壊、航空攻撃も申し訳程度

奇襲電撃作戦により短期決戦を目指した。 頓挫・停滞時の対応策は？

西側の制裁の効果が出る前に決着をつける。

陸軍部隊の進撃速度が鈍 市民犠牲の最小化を狙った, or ソ連軍自体の問題

露軍は本気なのか疑問

③ ウクライナ国民の意外な抵抗 歓呼の声なくとも結果を容認

ロシアとウクライナの一体感が希薄化 (露はウクライナは兄弟国との認識しているが、ウクライナのアイデンティティは強くなった。一体感が希薄になったことをロシアは理解できなかった。)

ウクライナ軍の意外な抵抗力

④ 国際社会が意外に強力に結束

西側の武器供与等の支援はないと誤判断

中国が優柔不断？ ロシアの資源外交への過信

⑤ ウクライナや西側の宣伝戦を甘く見た？

⑥ ロシア軍の通常戦能力が低下している。

⑦ ロシア国内の意外な反発

#### 3 ロシアのウクライナ侵攻の狙い

NATOの東方拡大阻止 ウクライナのバッファー化堅持

『1999 ポーランド、チェコ、ハンガリーが加盟

2004 バルト三国

ウクライナ、モルドバ、ジョージアが加盟の動き

ロシアは、NATOの東方拡大は約束違反と非難 正式な文書なし、口約束?』

#### 4 ロシア（ソ連）の対外侵攻

1968 プラハの春 戦車で潰した

1979 アフガニスタン侵攻 失敗し撤退(1989) ソ連の解体へ

2008 ジョージア侵攻

2014 クリミア侵攻

遣り口は皆同じだ。

#### 5 論点

- ① 現状変更の容認か否か 中国は注目?
- ② 経済制裁や国際非難の効果判定
- ③ 露の資源依存からの脱却は
- ④ 露の核恫喝は逆効果?
- ⑤ ロシアが矛を収める条件や機会の捕捉
- ⑥ ウクライナの抵抗限界への欧米の対応(武器供与程度でウクライナが持ち堪えられるか  
疑問。その際に西側はどうする?一戦止む無しかロシアの既成事実化を黙認か?)
- ⑦ 日本は如何なる支援をなし得るのか?  
装備移転3原則運用指針の改定が限界か  
人道的・財政的支援だけではない支援が要求されるのでは?自主主体的な決定は?

#### 6 今後の展開

幾つかのシナリオ

- 1 短期決戦:露の目算は狂いつつあり?
- 2 長期戦化(泥沼化):地形的に長期戦化は困難では
- 3 欧州戦争:偶発的事態から発展する可能性も
- 4 外交的解決(仲裁者たり得るのは、何処か?)
- 5 ロシアの政変(アフガンの例)の可能性もなしとはしない。

外交的解決が望ましいが、プーチンと話の出来る人物や国は?

如何なる条件があればプーチンをテーブルに着けさせ得るのか?

非難するのみでは罅が開かない。